

AE86改F20!!

WORLD OPTION

Corolla GT-S
×
John Russakoff

Real Tune & Exciting Car Magazine［オプション］
OPTION 2016年4月号（毎月26日発売）2月26日発売
第36巻第4号 通巻471号 1981年8月3日 第3種郵便物認可
http://www.jdm-option.com/

option

04
2016 April

MotorFan's YEAR 2016

今買っとけ!!

人気急上昇

平成の名車 バイヤーズガイド Best10

人気ベース車チューニング指南
買い時お手軽ベース車探し
穴狙いの個性派車両選び



コースレコード続出!!
CTAC2016

注目の新作ホイールコレクション
驚異の51秒台!! 筑波アタック2016
NISMOコンパクトに注目!! マーチ／ノート／ジューク

新連載
メンテナンス&リフレッシュ道場

読者投票でグランプリを選ぶ!!
R32GT-R総選挙



RS-DFプログレッシブは4月発売予定。18インチの8J～12Jまでが用意される。カラーは「マシニング&レーシングハイパーブラック(●)」、「ダークブロンズメタリック(●)」、「レーシングチタニウムブラック(●)」の3色となる予定だ。スポークロゴステッカーに斜体文字を採用して、進化モデルであることをアピール。



軽量化とデザイン性を増すために、スポークのサイド部分をマシニングで彫り込むアドバンスド・サイドカットを施してある。スポークのサイドだけでなく、センター付近のスポーク立ち上がり部分まで削り込んでいるところが特徴だ。



10本スポークのホイールは応力が分散するため、スポークを細く軽くデザインできるところが特徴。もちろんライバルである5本スポークのGTより軽く作れるため、運動性能の向上が期待できる。



Sタイヤをはじめとするハイグリップタイヤの使用を想定しているため、タイヤのビートが接するリム部分には滑り止めのローレット加工が施されている。タイヤの性能を引き出すスポーツホイールならではのこだわりだ。



19インチのRS-DFはリバースリムだったものの、400㎜ローターの大径ブレーキシステムに対応するために、プログレッシブではリバースリムを廃止。そのなかで最大限ディープリムになるように設計されている。

YOKOHAMA WHEEL
ADVAN Racing RG-DF
PROGRESSIVE



アドバンレーシングGTをライバルにビジュアルと性能を進化させた18インチ

『アドバンレーシングRS-DF』は2012年に発売されたモデルだが、今日まで19インチのラインアップしか存在しなかった。その理由は、前年に発売された『アドバンレーシングGT』の存在が大きい。鍛造製法を活かして極限まで軽量化を図りながら、デザイン性の高い5本スポークを融合。硬派な軽量ホイールを求めていたユーザーの心を捉え、発売と同時に大人気ホイールとなったのだ。

そんなGTフィーバーの真っ只中にRS-DFを立ち上げる事になったのは大きな誤算だった…と言っても過言ではないだろう。結果としてRS-DFはGTの影に隠れてしまった。デザインを担当した萩原さんにとって、RS-DFブランドの計画を再構築しなければならなくなったわけだ。

「RSをディープリム化したらイケんじゃないかという狙いはあったのですが、後になって考えてみるとスポーツホイールらしい硬派さというよりも、オシャレな方向性のデザインになっていたんですね」と萩原さんは語る。

そこで、デザインコンセプトの見直しに加え、Sタイヤが豊富な18インチにターゲットを絞り、リファインを図ることとなった。リベンジを挑むライバルはもちろんGT。ビッグキャリパー&ローターが納められるリムや、5種類のコンケイブを揃えて、18インチのGTと同じ設定とした。その中で、10本スポークならではの応力分散を利用してGT以上の軽量化を図り、最新の切削技術でデザイン的な要素をブラッシュアップ。萩原さんが敢えて『プログレッシブ』と名付けた意味を感じ取ると、このホイールの魅力と拘りがよく伝わるだろう。

ヨコハマ 萩原さん

「RS-DFプログレッシブは金型鍛造製法で軽量化を図った10本スポークスポーツホイールで、デザインはもちろん、軽量化や機能性を兼ね備えたホイールです。一方のRG-D2は最新の鋳造製法で作られたホイールで、鍛造では作ることが難しいスポーク形状が特徴ですね。こちらは7月ごろの発売を予定しています」



大径感の演出を避けることで生まれたステップリムによる有機的なコンケイブ

『アドバンレーシングRG・D2』の前身モデルとなる『RG・D』が発売されたのは2010年。6本スポークのRGシリーズのディープリムバージョンとして登場した。大口径&ディープリムというイカつい雰囲気を持つデザインは人気を博し、RG・Dというブランドを確かなものにしていった。

それから5年。「何か見落としているものは無いのか?」と、デザイナーの萩原さんは考えていたと言う。それまでアドバンレーシングのホイールは、大径に見せることを第一とし、スポークはリムのギリギリまで、いや、モデルによってはフランジまでスポークを伸ばし、視覚的に大径化するのが主流。いわばアドバンレーシングのデザイン的なアイデンティティだ。

しかし、この手法を採用せずいちど常識を崩してデザインをしてみたらどうなるのか? その新たな試みを形にしたものがRG・D2である。「ホイールを大きく見せること意識するあまり、見えていないものがあったことは確かですね。そのカギとなるのが意図的に小径を演出するステップリムデザイン。このデザインを使うことで、今まで見たこともないコンケイブが生まれました」と萩原さんは語る。

同じインチでも、ステップリムを採用することでスポーク長は短くなる。そして、チューンド用ホイールとしてキャリパーの逃げを確保することで、スポークの立ち上がりやコンケーブはより急角度を持つ。この逆転的な発想により、生き物がうねるようなRG-D2ならではのスポークデザインが誕生したのである。

THE NEWEST WHEEL
Special Vol.1

YOKOHAMA WHEEL
ADVAN Racing RG-D2

レイズ　YFC　☎03-3431-9981　http://www.yokohamawheel.jp



サイズおよびカラーは最終調整中となっているが「セミグロスブラック(●)」と「マシニング&レーシンググロスブラック(●)」の2色はほぼ確定。「マシニング&レーシングハイパーブラック(●)」は黒の色味を変更することになりそうだ。マシニングリムのモデルは、まるで2ピースホイールのような表情を見せる。



RG-D2特有のコンケイブをより立体的に見せるため、アドバンスド・サイドカットを採用。光のコントラストを強調され、美しいシルエットを描き出してくれる。



コンケイブの高低差は変わらないものの、ステップリムによってスポーク長が短くなったために急激な曲線を描くスポークデザイン。大容量ブレーキキット対応で、3種類のコンケイブデザインが用意される。



ヨコハマホイールの定番、フランジのギリギリからスポークを立ち上げる「オーバーフランジスポーク」ではなく、あえて1段、小径化する方向に段差を付けたところからスポークを立ち上げるのが「ステップリム」だ。